

Message from a Globalist 7



井川定一氏
NPO法人 アジア日本相互交流センター
ICAN代表

「NGOという選択」

学生時代には、20カ国以上を旅しました。旅というより放浪といった方がいいかもしれません。バックパックを背負っているいるな土地に行き、いろいろな人と出会いました。アルバイトでトム・クルーズの警備担当をしたこともあります。大学卒業後、国立フィリピン大学大学院で地域開発について学びました。フィリピンのNGOで働いた後、アイキャンのマニラ事務所職員になり、現在はアイキャン本事務局の事務局長をしています。

NGO (Non-Governmental Organizations) とは紛争や戦争、飢餓や貧困、自然破壊、地球温暖化、差別や偏見など世界的な問題に対して、政府や国際機関とは違う「民間・市民」の立場から、国境や民族、宗教の壁を越え、経済的な利益を目的とせずに取り組む団体を言います。

次に、アイキャンの活動についてお話ししましょう。正式には、認定NPO法人アジア日本相互交流センターと言います。フィリピンを訪れた1人の日本人会社員が子供たちの現状を前にして「何かできることがあるはず」と考え、友人と集めた5万円を元に1994年に設立した団体です。名古屋の日本事務局のほかに、フィリピンにマニラ事務所、ミンダナオ第1、第2事務所があります。

紛争地の子供たち、ゴミ処分場周辺の子供たち、災害の被害にあった子供たちのために、「子供が学校に集まれば平和が作られる」「住民が一番知っている」「人は助け合って生きている」を基本的な考え方として活動を続けています。また、「若者や子供を、国境を越えてつなぐ」ためにTULAY PROJECTを始めました。昨年と今年、絵手紙交流を行ったほか、昨年12月には愛知県の中学生5人とフィリピンの子供たちが交流する子供使節団を派遣しました。その中には名古屋国際中学校の山林君もいました。

最後になぜ私が「NGOという選択」をしたのかについて話します。

たぶん私が高校1年のときに体験した阪神・淡路大震災が大きく関わっているのだと思っています。また、大学時代の旅ではたくさんの「友達」に出会いました。「豊かさ」と「貧しさ」に直面しました。さまざまな経験を通じて私が得たことは「私1人の人生が他の1万人の人生を変えることになるかもしれない。豊かにすることができるかもしれない」という想いです。

THE FRONTIER TIMES

Report 1 全国NO.1な国際生たち！

チャレンジジュニアゴルフオープン優勝！！

日本ジュニアゴルフ協会主催
15歳～18歳女子の部
(6281ヤード、パー72)でトータルスコア145！

橋本 遥さん(国際教養科1年)



Feature

こうふうさい

光楓祭で模擬国連会議を開催！

本校では模擬国連会議を題材とした教科活動を実施しています。

国際理解教育の最終プログラムとして位置づけているこの企画について関係者の方々にインタビューしました。

【Interview】

TIMES: 模擬国連とはどのような企画なのですか？

George校長: 参加者一人一人が世界各国の大使となって、実際の国連で扱われている諸問題について話し合うことで国連会議を再現し、その地球規模で解決を図ろうとする国連のシステムを理解するものです。これは本校の国際人の育成に貢献している教科の取組みと考えています。

TIMES: いつから模擬国連を授業に取り入れているのですか？

Richard先生: 3年前に国際教養科のネイティブの先生の授業で試験的に実施しました。中高一貫コースでは今年が2回目の開催になります。

TIMES: 模擬国連を授業に取り入れているねらいは？

George校長: 事前に割り振られた担当国の外交方針や経済情勢などをチームで調査学習し、決議や宣言の採択にいたるまでの準備をすることで、関係諸国の立場を理解することができます。生徒が主役となって参加することで、国際的な視野を培う機会に恵まれると思います。

TIMES: 今年のテーマは？

Richard先生: 2つあります。1つは「Peacekeeping in Darfur (ダルフールにおける平和維持活動)」と「Universal Primary Education (普遍的初等教育)」です。



▲金子君(左)と宮崎さん(右)



▲Richard先生



▲George校長

TIMES: すごくテーマを扱いましたね。開催までの準備にどのくらいかかるのですか？

金子君: 1ヶ月半ぐらい前から準備したと思います。私の担当国はスーダンでしたが、インターネットでは日本語での情報が少ないため、準備に時間がかかったほうだと思います。調査しているうちに、住民を守るためには平和維持活動が必要だということが徐々に分かってきます。

TIMES: 開催当日までの準備に相当時間をかけるのですね。当日はすべて英語で行うとお聞きしましたが、日本語は使わないのですか？

宮崎さん: チームで調査学習する時はもちろん日本語ですが、会議開催となると日本語はまったく使いません。代表者は担当国の発言を英語で作成して、ネイティブの先生に事前に訂正していただきます。

TIMES: 英語のスキルアップと国際的に物事を考えてみたい人には適した企画ですね。

Richard先生: 今年の模擬国連に参加した生徒は皆よく頑張ったと思います。英語でのプレゼンテーションや共同作業、また、合意形成のプロセスが学習できることも大切なことですので次年度にも期待したいです。



▲進行中の表情は真剣そのもの



▲担当国の大使となって発言する国際生

What is

模擬国連の歴史

模擬国連の実践は1923年にハーバード大学から始まり、現在では世界の高等教育および中等教育機関の授業で採用されています。日本では1983年に緒方貞子氏(現 独立行政法人国際協力機構理事長)の下に発足し、国内では300名近い大学生や大学院生が模擬国連活動に参加しています。

Thinking about the Future

〔国際生OB OGから現役国際生へ〕

● Message to Students ●

夢を諦めないで

2003年度(国際教養科)卒業生
カタール航空 客室乗務員(ドバイ在住)

藤村晃子さん

私は小学校のときから客室乗務員になることが夢でした。優等生ではありませんでしたが、音楽と英語は好きでした。英語の成績は普通でしたが、夢を叶えるために国際高校を選び、1年間英国の高校、大学も音楽科に留学しました。クラスには私一人がアジア人で、意見を言えず遅れを取り、頑張っても良い結果が出せなくて何回も挫折しそうになりました。

でも、生半可な気持ちの留学ではないので踏ん張りました。目標があったからこそ頑張ることができ、日本人初の卒業生になりました。また、多くの経験を積む為、老人ホームのピアノ演奏ボランティア、大学での模範演奏、マーケットでアルバイトもしました。マーケットでは偶然、ロンドン研修旅行中の母校の生徒に会ったことは良い思い出です。日本では着物モデル、レストランのアルバイトもしました。色々チャレンジすることにより、考えも広がりが国柄に合った接し方も学ぶ事が出来ました。これ等の事が私の宝物です。

皆さん、自分を信じて常に前向きに進んで下さい。今は6000人の中から勝ち抜いて13人に選ばれ、支えて下さった人達に感謝でいっぱいです。夢を諦めなくて本当に良かったです。就活中にも苦しい事もありましたが、乗り越えたからこそ今の仕事を誇りを持ち世界83カ国へフライトを楽しんでいます。FRONTIER SPIRITを持っていれば必ず出来ます。国際人になる能力を身に付け沢山の生徒が世界に羽ばたく事を望んでいます。



▲卒業したロンドンの大学にて

◀客室乗務員姿の藤村さん

NAGOYA INTERNATIONAL JUNIOR HIGH SCHOOL MUSEUM

フロンティア美術館

「抽象表現に挑戦！」

中学1年生ではデッサンの次に「抽象表現」に挑戦します。最初に「甘い」「辛い」「酸っぱい」「いがい」という味覚を題材に抽象表現の基礎を学びます。その後、「漢字」一文字を選び、そこから思い起こされる「感じ」を抽象的な模様として表現し、画面内で融合させます。中学3年の秋田れみさんが1年次に制作したこの作品は、レタリング・模様・色使い・塗りの丁寧さなど、どこをとっても隙のないものとなりました。後輩たちが「自分もこんな作品を創ってみたい」と思える素晴らしい手本となっています。



Great Dialogue from the Movies

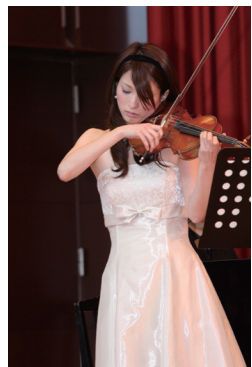
“That’s funny....
That plane’s dustin’ crops
where there ain’t no crops.”

妙じゃな…。
あの飛行機は何も植わってるところに農薬をまいておる。

アルフレッド・ヒッチコックの映画「北北西に進路を取れ(1959)」の中で、有名な登場人物がロジャー・ソーンヒル(ケリー・グラント)にこの台詞を言います。

ロジャーは広大な農地のさびれた道路に誘い出され置き去りにされます。車が何台か走り去り、不安がつっついていきます。トラックが土ほりを浴びせながら通り過ぎます。1台の車が道路の向こう側に1人の男を降ろしていきます。その男は飛行機が1台作物のない場所で農薬散布をしているのを奇妙だと言いい残り、ロジャーを一人残してバスに乗って去って行きます。するとその飛行機は突如ロジャーに襲いかかります。彼の上をかすめるように飛び、マシンガンで連射します。ロジャーはトウモロコシ畑に隠れますが、飛行機は農薬を噴射して、彼を追い出します。ロジャーは通りがかったトレーラーに助けを求めますが、飛行機はそのトレーラーに激突して大破します。この有名な10分間のシーンには台詞はほとんどなく、非現実的な映像がBGMもなしに展開します。

An unnamed character utters these words to Roger Thornhill (Cary Grant) in Alfred Hitchcock's film North by Northwest (1959). Roger is lured to a barren crossroads in wide-open farm country. Suspense slowly builds as cars pass through the desolate area. A truck sprays him with road dust. A car drops the unnamed character on the other side of the road. The man says that it is odd that a plane is dusting in a place with no crops. Then he boards a bus, leaving Roger alone again. The plane then terrorizes Roger, swooping down upon him and spraying machine gun fire. Roger runs into a cornfield to hide, but the plane showers him with pesticide and flushes him out. Roger then stops a semi-trailer truck. The plane flies into the truck, causing a terrific explosion. In this famous ten-minute scene, there is almost no dialogue at all, just surreal visuals without background music.

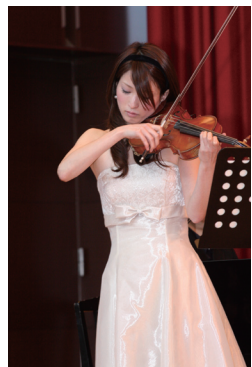


▲コンサート終盤に演奏する田中先生

2 響き合うアトリウム

第6回 ヴァイオリンコンサート

11月25日(水)に第6回ヴァイオリンコンサートが本校アトリウムで催されました。少し緊張した面持ちでステージに上がった国際生たちが、日頃の音楽の授業で練習した成果を披露。初々しい1年生の演奏からはじまり、最高学年の演奏「霧島(作曲: 葉加瀬太郎)」では、6年間の成果を感じさせる素敵な音色を奏することができました。また、指導者の田中亚希子先生の演奏では、生徒のみならず、先生たちや来場された保護者の方々も、うっとり聴き惚れていました。



▲コンサート終盤に演奏する田中先生

◀ヴァイオリンの音色がアトリウムいっぱいに広がります

全国大会でGrand Prize獲得!!

ホノルル市長杯
第5回全日本ECC中学生英語暗唱大会
武藤玲奈さん(中高一貫2年)



ホノルル市長杯
全日本ECC中
英語暗唱大会全国
大会
会場ECC中
武藤玲奈さん



全国の中学生が暗唱した英語文のスピーチ力を競う中学生英語暗唱大会で、中高一貫コースの武藤玲奈さんが快挙を得ました！全国の中学生参加者3万人の中から50名が選抜され、そのうち中学2年は17名、中学2年17人から3人(金賞)が選ばれ、その中のトップ(Grand Prize)1名に選ばれました！

優勝の直後は「優勝した」という実感が、なかなか湧きませんでした。親や友だちから「おめでとう」と祝福され、やっと「優勝できたのだ！」と実感することができました。6年間ゴルフをやってきて、全国大会で初めての優勝でした。それも終盤に5打差をひっくり返してのものだったので、これは自分自身大きな自信になりました。今までなら負けるものか！の気持ちはあっても空回りしたりして、成果に結びつけられなかったので、技術だけでなく精神面でも大きく成長できたと思います。今回の優勝は、家族や周りの人たちに支えられての今までの練習の成果だと思います。さらに練習を重ねて、成果を出していきたいと思います。もちろん学校の勉強でも頑張っていきます。